

# 警報・地震・津波・Jアラートに関する情報と防災対策

## (1) 暴風警報・暴風雪警報・特別警報発表の場合

①蒲郡市に名古屋地方気象台から暴風警報・暴風雪警報・特別警報が発表された場合

ア) 午前6時の時点で発表されている場合は、その日は臨時休業（休校）とする。

○特別警報になる対象・・・強度の大雨、暴風、波浪、高潮、暴風雪、大雪（大津波警報、大噴火警報、緊急地震速報（震度6弱以上）は、特別警報として位置づけられる。ただし、「○○特別警報」とは改めて発表されない。）

※緊急地震速報発表後、数分たっても震度6弱以上の大規模な地震が起きなかった場合、児童は、ラジオ、テレビ、インターネット等からの情報で安全を確認したうえで、登校する。

イ) 児童の登校後に発表された場合

◆気象、交通機関及び通学路の状況を判断して、児童を安全に帰宅させようと判断したときには、授業を中止し通学団の顧問付き添いのもと、速やかに下校（暴風警報発令時の一斉下校）させる。

※この場合、学校よりメール配信をする。

（登録をしていない保護者には、電話連絡をする。）

※留守家庭などで学校待機とした児童については、保護者の迎えがあるまで学校で保護する。

②暴風警報・暴風雪警報・特別警報が発表されていないが、大雨、強風、竜巻等異常気象により児童の安全確保に困難が予想される場合

名古屋地方気象台から発表される注意報・警報等の気象情報を把握するとともに、気象・交通機関及び通学路の状況などを判断し、学校長及び市教育委員会が休業や授業の中止を決定する。

## (2) 地震の場合

①在校中に大地震が発生した場合

・避難訓練の要領に従い、安全の確保を図ったうえ、保護者の引き取りを待ち下校させる。

※学校よりメール配信をする。（メールに登録していない保護者には、電話連絡をする。）

保護者の迎えがあるまで、学校内で児童を保護する。

②登下校中に大地震が発生した場合（自宅が近ければ自宅へ、学校が近ければ学校へ）

・海、川、堀、石垣、電線等に近寄らない。また、落下物に注意しながら安全な場所（公園・広場など）に避難する。

- ・津波が想定される時は、高いところに逃げる。
- ・ガソリンスタンドは、爆発の恐れがあるので近寄らない。

### ③南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合

- ア) 児童が在校中の場合、授業又は学校行事は打ち切り、下校の準備を整え、安全確認後、保護者の引き取りを待ち下校させる。
- ※この場合、学校よりメール配信をする。
- 保護者の迎えがあるまで、学校内で児童を保護する。
- イ) 児童が登下校中の場合、速やかに帰宅させる。(ただし、学校が近い場合は、登校する)
- ウ) 児童が在宅中の場合は、自宅待機とする。
- エ) 国からの呼びかけ（避難の解除）に基づいた市教委からの指示、または、指示を受けて学校から「授業再開」の連絡をするまでは、臨時休業（休校）とする。

- ※ 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の場合は、注意対応を取りながら、学校活動は継続する。
- ※ 南海トラフ地震臨時情報（調査終了）の場合 [(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合] は、平常の学校活動を継続する。

### (3) 津波の場合

#### ①大津波警報が発令された場合

全校児童学校待機 → 校舎3階へ避難する。  
大津波警報解除後に、保護者へ児童を引き渡す。

#### ②津波警報が発令された場合

状況を見て、校舎内待機、あるいは校舎3階へ避難する。  
津波警報解除後に、保護者へ児童を引き渡す。

#### ③津波注意報発令の場合

全校児童に海岸付近に近づかないように注意する。  
安全確認後、下校指導を行う。

### (4) Jアラート[ミサイル発射]発令時(対象地域となった時)の場合

#### ①登校前に発令された場合

- ・緊急避難行動をとり、自宅待機とする。

#### [緊急避難行動]

- 机などの丈夫なものに隠れ、頭を守る。
- 窓から離れて、外を見ない。
- 携帯やテレビ、ラジオで情報を収集する。

- ・午前10時までに「ミサイル通過」など安全が確認されない場合は、休校とし、自

宅待機をする。

- ・午前10時まで安全が確認された場合は、安全に十分注意し、登校する。

②登下校中に発令された場合

- ・緊急避難行動をとる。

[緊急避難行動]

- できる限り速やかに頑強な建物に避難する。
- 近くに適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ、頭部を守る。

- ・安全が確認できたら、学校か自宅の近い方に向かう。

③学校で発令された時

- ・緊急避難行動をとる。

[緊急避難行動]

- 教室等の中で身を低くする。(屋外にいる場合は、直ちに屋内へ避難する)
- 窓から離れ、外を見ない。
- 机など丈夫なものに隠れ、頭を守る。

- ・ミサイルの通過が確認できない、連続してミサイルが発射される可能性があるなど、その後も長時間にわたって安全が確認できない場合は、保護者に連絡し、引き渡しを行う。連絡がつかない児童は、学校で保護する。

★参考

[弾道ミサイル攻撃情報 ]国民保護サイレン14秒 吹鳴

「ミサイル発射情報。ミサイル発射情報。当地域に着弾する可能性があります。屋内に避難し、テレビ、ラジオをつけてください。」(3回繰り返し)